

平成30年度 唐津市立外町小学校 学校評価結果

1 学校教育目標 『21世紀を生きる力』を育む子ども 自ら学び高め合う、たくましく心豊かな外町っ子を育てます！	2 本年度の重点目標 【学力向上】 ・カリキュラム改善 ・アクティブラーニング、活用型授業の推進 ・英語科・道徳の研究推進 ・本に親しむ環境づくり ・家庭学習の充実 【豊かな心の育成】 ・三つの生活習慣確立（あいさつ・そうじ・廊下歩行） ・支持的風土に基づく学級経営 ・心の教育の充実 ・ボランティア活動や地域教材化の充実 【健康増進・体力向上】 ・体づくりの奨励 ・健康増進への意識の高揚 ・食育の推進 ・安全安心な給食運営 【特別支援教育の充実】 ・個に応じた指導と支援体制の充実 ・保護者や専門機関との連携 ・特別支援学級や通級指導教室の活用 【連携活動の推進】 ・五中校区連携三部会の活動推進 ・外町ボランティアを核とする地域との連携 ・保護者・家庭と連携した家庭生活習慣の確立
--	--

達成度
 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 学力向上の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	カリキュラム改善とアクティブラーニング、活用型授業の推進及び英語科・道徳の研究推進	授業において主体的な学びにつながる課題設定を行う。 外国語指導助手とのチーム・ティーチングの他、担任のみの授業を行い、児童が外国語に慣れ親しむことができる授業を行う。 1年に少なくとも1回全教員が指導案に基づいた研究授業を行い、個々の授業力及び学校全体の教育力を高める。 全国や県の学習状況調査結果から課題を明らかにし、授業改善につなげることで、次の調査では3～5ポイントを上回る。 五中校区で連携して、活用型授業を目指した授業づくりに努める。	話し合いに関するマニュアルを見直し全教科への汎用性を高める。 校内研修の年間計画に研究授業を位置づけ、実践する。 校外での研修に積極的に参加できる校内体制を整備する。 夏季休業中に、学習状況調査を活用した研修を行う。 「すくすくタイム」で基礎・基本をしっかりと身につける。 5・6年生で放課後に「学びタイム」を設定し、基礎学力の定着を図る。 国語、算数を中心に活用型授業を意識した単元づくり、課題設定の工夫を図る。	B	本時のめあてを提示し課題を把握させることが始りの学習でできている。 3学級が提案授業を行い、学習指導要領本格実施に向けて滑らかに移行できるための授業の在り方や目標に応じた授業の積み重ね方について共通理解を図ることができた。 夏季休業中に講師を招聘した研修会を行うとともに、若手を中心とし、先進校の授業研究空海に参加した。 4月調査では漢字や語句等9/20、12月調査では説明や計算等41/47が県正答率を下回った。各結果を受け、全職員で課題を共有し、補習を図った。 五中校区の職員が介したり情報共有したりして基礎学力の定着と活用型授業に向けて共通理解した上で指導を行った。	学習指導要領本格実施に向けた主体的・対話的で深い学び、外国語活動や外国語の授業改善の実現に向け、さらに校内及び個々の研修を深めていく。 継続的に研修会を開催するとともに、実践提案を推進し、個々の授業力及び学校全体の教育力の向上を図る。 調査結果の向上に向け、研修会を開催するとともに、今年度課題となった児童の説明力の向上を図る。 補習だけでなく予習をも図り、児童の学習力の定着、向上を図る。
		本に親しむ環境づくり	児童にとって利用しやすい図書館とし、図書館利用率の5ポイント向上を目指す。	図書館の本の配列を工夫したり、昼休みを利用しての読み聞かせを実施したりと、児童が楽しめる図書館の環境作りを行う。	B	PTAやALTIによる読み聞かせでは、児童は聞き入っており、学校図書室の利用も高い。 「子どもが進んで読書をしている」と感じる保護者の割合は62.8%であった。	引き続き図書館の利用状況や読み聞かせの状況を発信し、保護者理解と家庭による読書量向上を図る。
		家庭学習の充実	宿題の提出100%をめざす。 主体的な学習態度を身につけさせるために、自主学習を推進する。 「家庭学習のすすめ」をもとに家庭での学習習慣を身につけさせる。	宿題をきちんとしているかを保護者に確認してもらうための「家庭学習振り返りカード」を活用する。 自学ノートを推進し、頑張っている児童の学習内容を紹介したり、ノートの写しを掲示したりする。 「家庭学習のすすめ」を全家庭に配布し、家庭と連携して充実を図る。	B	児童の家庭学習状況を保護者がチェックするOK活動を年に3回行った。 五中校区で共通して自主学習の方法を提示したり、良い学習方法を提示し、推進した。	引き続き、復習や予習の仕方を提示・指導するとともに、OK活動により保護者に家庭学習に対する理解を図る。 「家庭学習のすすめ」は引き続き配布し、家庭での理解を図る。

② 豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	三つの生活習慣の確立(あいさつ・そうじ・廊下歩行) 支持的風土にもとづく学級経営 心の教育の充実 人権・同和教育の充実 ボランティア活動の推進 異年齢集団による思いやりの心の醸成	すすんで朝のあいさつができる児童90%以上をめざす。 掃除の徹底。 支持的風土にもとづく学級づくりのため、「やさしい言葉」や「さん・君」をつけて呼ぶ児童90%以上をめざす。 道徳の時間の充実や体験活動・ボランティア活動への取り組みを通じて、豊かな心を育てる。 地域や保護者へ道徳の授業を公開する。 人権集会や人権教室を実施し、人権意識が高まったという児童の割合を90%以上にする。 ボランティア活動への取組を通してボランティア精神の醸成を図る。	毎朝のあいさつシャワー隊の活動を継続し、あいさつ運動を進める。 無言掃除を実施するとともに、職員も一緒に掃除を行い、掃除指導を行う。 QUTテストを実施し、結果を分析し学級経営に生かす。 唐津市教育の日を含めた参観日に、1回以上道徳の授業を公開する。 祖父母参観を実施し、ふれあい交流を行う。 人権集会を年間2回行ったり、人権教室を開催したりして、人権意識を養う。 ボランティア委員会を中心に、ボランティア活動を推進する。また、総合的な学習の時間で「福祉」の学習を行う。 運動会の応援に関わる活動を行い、異学年間での団結を図る。 年間5回(ショート3回、ロング2回)の縦割り遊びを実施し、他学年との交流を深める。	B	一年間あいさつシャワー隊として参加した児童の成長と交わすあいさつの向上が感じられる。 無言掃除週間を設定したが、児童は熱心に取り組んだ。 「さん・君」をつけについては、課題が残る。 Q-Uの分析・活用と支持的風土にもとづく学級づくりに努めた。 保護者や祖父母の方へ道徳の授業を公開した。 児童が提示する人権集会を行い、相手のことを考えた言動を考えることができた。 今年度もボランティア委員会を中心に、地下道の清掃活動やペットボトルキャップ・アルミ缶回収、花いっぱい運動など幅広く活動した。 6年生が主となり、全校児童が楽しめる活動を企画実施し、異学年間でそれぞれをいたわる活動が多々見られた。	あいさつシャワー隊の活動は継続して行う。また、その活動を全校児童に紹介し、隊員拡大を図る。 引き続き支持的風土を基にした学級づくりのため、教師の力量アップを図る。 年に1回以上の道徳の授業公開を行う。
		いじめ防止等の体制の構築 いじめに対する共通理解と取り組むための共通認識の獲得 いじめ未然防止・早期発見・早期対応	いじめ防止対策の啓発を行う。 みんなでいじめを考える日「みじかな日」(毎月末)を設定し、いじめについての意識を高める。 いじめ問題に関する校内研修を行い、職員の実践力を高める。	外町小いじめ防止基本方針を家庭へ配布し、取り組みの周知をする。 「みじかな日」に、いじめに関するアンケートを実施し、その結果を学年や学校全体で共有する時間を設定する。 5月と12月をいじめ防止月間とし、人権集会を中心にいじめ防止に関する取り組みを行う。 年間3回いじめに関する研修会を実施する。	A	みじかな日アンケート結果を基に全職員で児童の困り感を共有し、いじめの早期発見や児童への指導、寄り添いに努めた。 教師の児童理解の資質向上につながった。	今後も「みじかな日」アンケートを行い、いじめや児童の困り感の早期発見を図る。 引き続き職員研修会を開催し、児童理解の資質向上に努める。 教師のアンテナを高く保てるよう、情報交換に努める。

③ 健康増進・体力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	手洗い、うがい、歯磨き指導の徹底	感染症の拡大防止に努める。 う歯の罹患率を下げる取り組みを行う。	感染症流行期には、手洗い、うがい、換気を校内放送で呼びかけるとともに保健便りで感染症予防の方策を家庭へも伝える。また、児童机の配列にも工夫する。 全校児童対象にしたブラッシング指導を行う。その後歯磨きカレンダーを活用し、ブラッシングの定着を図る。	B	手洗い、うがいの励行を図った。 インフルエンザに感染した児童もいたものの、学級や学校閉鎖まではならなかった。 今年度も歯科校医によるブラッシング指導を実施し、学校における歯磨きは定着できた。	引き続き手洗い・うがいを励行し、感染症予防を図る。 引き続きブラッシング指導を行い、歯磨きの定着を図る。
		食育の推進	食事マナーの向上(箸の持ち方、姿勢) 食事に関心を持ち、偏食を少なくし、昨年より残菜を減らす。	箸の使い方の練習スペースを作り、掲示物などを活用して正しい箸の持ち方を身につけさせる。 校内放送での給食ニュースや各教室での声かけを行う。	A	箸の正しい使い方を身につけさせることができた。 放送委員会による給食ニュースを行った。	箸の持ち方や食べる姿勢については引き続き指導を行う。 引き続き、給食ニュースを行う。
		体力の向上	運動に親しむ環境づくりを行う。	体育委員会によるチャレンジコーナーやジョギングタイムを設定するとともに、「さがんキッズスポーツチャレンジ」を推奨する。 長縄や竹馬など、児童の活動意欲を高めるための場や道具を準備する。 体力テストの結果を保護者へ知らせ、自分の子どもの体力について関心を持たせる。	A	今年度も体育委員会によるチャレンジコーナーは好評だった。 縦割り班活動を中心に、体育の時間や昼休みなど長縄跳びに取り組んだ。	児童が楽しく体力向上に取り組むことができるよう「さがんキッズスポーツチャレンジ」をはじめとした運動に親しむ取組を行う。 体力テスト結果は引き続き保護者へ知らせる。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	教材作成や個々の研修の共有化を図ることで、時間外勤務を短縮する。	研修に係る会議を時間内に終了させるとともに、毎週金曜日を定時退勤推進日と定める。	B	時間内の会議終了はできた。 昨年度よりも職員の平均退勤時刻は早くなった。	職員個々の実態に応じた定時退勤推進日を設定し、実施する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	○特別支援教育	個別支援が必要な児童への支援体制の確立 特別支援教育の充実	特別支援教育に関する職員研修を年間5日以上行い、一人一人を大切に指導の重要性について全職員の共通理解を図り、支援体制を確立するとともに、専門性の向上を感じる教師の割合を80%以上にする。 児童に応じた指導計画、支援計画を作成し、一人一人に必要な指導や支援を行う。	週に1回の「子どもタイム」で情報の共有を図る。 特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会やスクールカウンセラーが連携し、担任や保護者のサポート体制を確立する。 校内教育支援委員会や特別支援教育に関する研修会を定期的に行い、全職員の共通理解を図る。 特別支援学級や通級指導教室に関する環境整備を行い、指導の充実を図る。 児童の観察や保護者との連携を密に行い、必要な指導を適切に行う。	A	子どもタイムでの情報交換は、職員の児童理解と協力体制を強化できた。 スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターの提示する研修により教職員の理解向上が図れた。 計画通りに研修会を開催した。 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内指導体制は確立し、全職員で指導・支援に努めた。	現在の体制を維持できるよう校内支援体制を構築する。 引き続きスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー・北部児童相談所等との連携を深め、児童個々の困り感解消と保護者との連携に努める。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

学力向上については、基礎的・基本的事項の定着は図れたものの、分析したり説明したりする力が課題であるため、職員間で共通理解を図り、授業力向上に努めていきたい。
 今年度のいじめの認知は5件であった。児童一人一人の困り感の早期発見・解消のため、引き続きアンケート調査や校内研修を行うことで、校内支援体制を高め、児童の豊かな心の醸成に努めていく。
 今年度も保護者へアンケートをとったところ、「言葉遣い」と「進んで読書」は課題となった。支持的風土づくりと家庭における読書量増加に向け、取組を工夫・改善し、向上を図りたい。
 2020年度は学習指導要領が本格実施される。引き続き全教職員の資質向上を図り、研修を行い、滑らかに実施できるように努める。

●は共通評価項目、○は独自評価項目